

石巻市

お お た か ま あ と
太 田 窯 跡

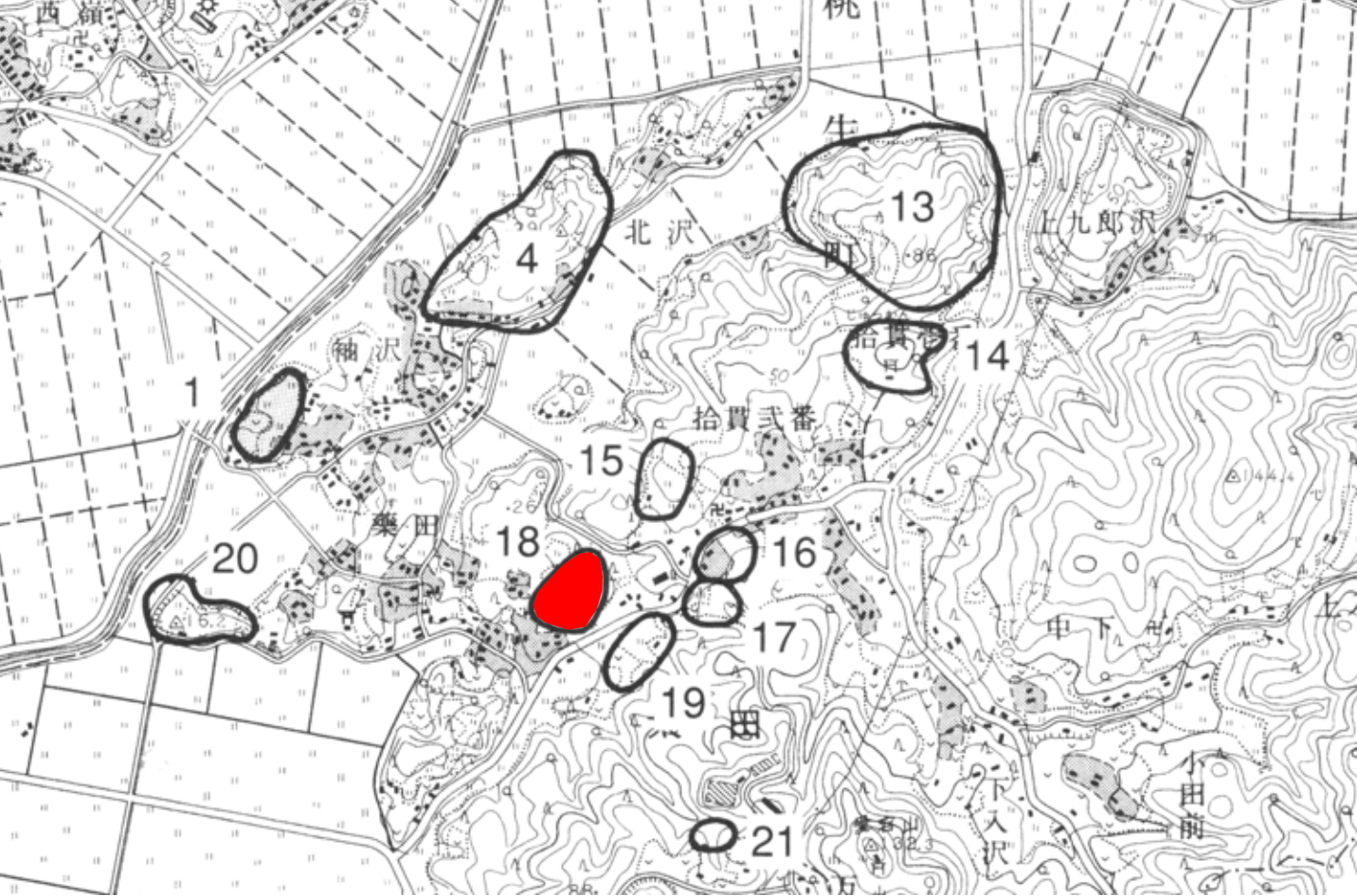
現地説明会資料



旧河道の遺物集中箇所（灰白色火山灰降下後）

平成 17 年 11 月 19 日（土）午後 1 時 30 分～

宮城県教育委員会



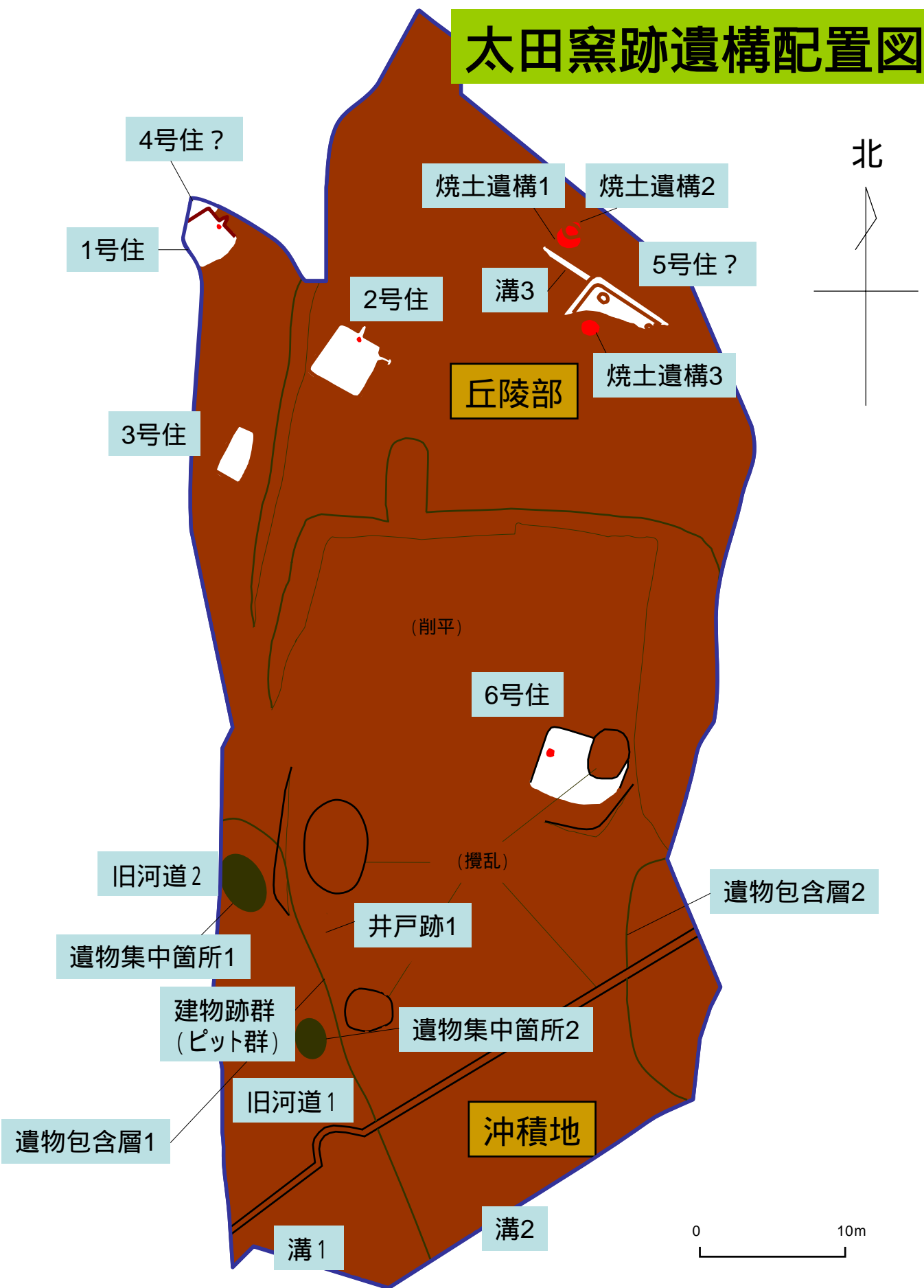
太田窯跡と周辺の遺跡

番号	遺跡名	番号	遺跡名
1	袖沢古墳群	17	宋全山窯跡
13	安倍館跡	18	太田窯跡
14	日高見神社遺跡	19	細谷B遺跡
4	角山遺跡	20	太田館跡
15	拾貫壱番遺跡	21	万歳山B遺跡
16	細谷遺跡		

調査要項

遺跡名 太田窯跡(宮城県遺跡地名表搭載番号70027:遺跡記号SP)
 所在地 宮城県石巻市桃生町太田字拾貫式番
 調査原因 三陸自動車道建設
 調査面積 約2,800m²
 調査期間 平成17年5月9日～6月13日 10月12日～11月30日(予定)
 調査担当 宮城県教育庁文化財保護課
 調査協力 国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所・南三陸事務所
 石巻市教育委員会・桃生総合支所・拾貫東部落会

太田窯跡遺構配置図



4号住?

1号住

3号住

2号住

焼土遺構1

焼土遺構2

5号住?

溝3

丘陵部

焼土遺構3

(削平)

6号住

旧河道2

(攪乱)

遺物包含層2

遺物集中箇所1

井戸跡1

建物跡群
(ピット群)

遺物集中箇所2

旧河道1

沖積地

遺物包含層1

溝1

溝2

0 10m

1. はじめに

太田窯跡は、石巻市桃生総合支所から約 1.6 km 東の桃生町太田字十貫弍番にあります。遺跡は北上川によって分断された北上山地の南の独立丘陵に位置しています。丘陵は北東から南西方向にのびており、標高は最も高いところで約 140m あります。丘陵の南と北に沖積地が広がっています。この丘陵には延喜式内社で桃生郡内六座中筆頭にあたる日高見神社があります。周辺では南約 3 km に古代の城柵官衙遺跡として有名な桃生城があります。桃生城は 760 年に造営され、774 年に海道蝦夷の反乱によって西郭が破られたことが『続日本紀』に記載されています。

太田窯跡は三陸自動車道の矢本石巻道路建設に伴い、平成 14 年度に確認調査、平成 15 年度に第 1 次の発掘調査を行っています。その調査区は北に約 300m の地点で丘陵の西斜面にあたり、奈良・平安時代の竪穴住居跡が 5 軒、江戸時代以降の建物跡が 1 棟発見されました。

今年度の第 2 次調査は、遺跡南側の丘陵部緩斜面～沖積地部分に、調査区を設けました。調査区内の中央部は宅地造成による削平を受けており、遺構は残されていませんでした。

今年度、石巻市桃生町内では、この調査のほかに太田窯跡から北に約 4.8 km 離れたところにある山居遺跡の発掘調査も行っています。山居遺跡では、奈良・平安時代の竪穴住居跡 8 軒と縄文時代中期～晩期の水場に関わる遺物包含層などを調査（県文化財保護課 H.P. 2005 年度発掘情報 <http://www.pref.miyagi.jp/bunkazai/info2005/sankyo.htm> 参照）しています。

2. 発見された遺構

今回の調査では、丘陵の南斜面を中心に、竪穴住居跡 6 軒、焼土遺構 3 基、溝跡 3 条、遺物包含層 2 箇所、遺物集中地点 2 箇所、井戸跡 1 基、掘立柱建物跡のものと考えられる多数の柱穴（ピット）などが発見されました。これらの遺構の年代は奈良・平安時代のものが大半を占めています。

【竪穴住居跡】

竪穴住居跡とは地面を掘りくぼめて床と壁を作り、その中に柱を立てて屋根を乗せた家の跡です。奈良・平安時代のものが 6 軒（うち、残存状況の悪いものが 2 軒）発見されています。住居跡の平面形はほぼ方形で、規模は一辺約 4 m～約 6 m の大きさです。炊事のための施設であるカマドは北東側にあるものと西側にあるものとが見られます。

1 号住居跡は、調査区北西部で発見されました。4 号住居跡の一部を壊して作られています。この住居跡は調査区外にも広がっており、全体形は必ずしも明らかではありませんが、概ね一辺約 4 m の方形の住居跡です。カマドは北東辺の中央に付けられ、北東方向に煙道が延びていること、住居の壁際には周溝が掘り込まれており、この周溝は排水に利用されていたことなどが確認できました。この住居のカマド部分では、周溝の上に板状の礫が据えられ、その上に粘土でカマドが構築されており、排水のための入念な工夫が施されています。



1号住居跡カマド 南西から

2号住居跡は1号住居跡よりも一段低い場所で発見された住居跡です。一部が削平されているものの、最も残存状況が良く、一辺約4mのほぼ方形を呈しています。カマドは北東辺の中央より左側に付設され、北東方向に煙道が伸びています。住居の壁際に周溝が掘り込まれており、南東辺の周溝には両側に板状の石を縦に据えている外延溝が接続していることから、排水施設として機能していたとみられます。この住居も1号住居跡と同様にカマドの底面には板状の礫が置かれ、暗渠となっていました。



2号住居跡全景 南から



焼土遺構 1・2 断面

【焼土遺構】

焼土遺構とは地面を掘り込んでその内部で火を焚いたもので、堆積土に焼土や炭化物を含む遺構をいいます。今回は丘陵部で3基検出しており、そのうち2基は重複して確認されました。今回検出した焼土遺構は60～80cmの楕円形のもので全面が被熱により赤色硬化し、その上面に炭化物が堆積していました。

【遺物包含層・遺物集中箇所】

丘陵部裾周りでは、灰白色火山灰（十和田 a：10世紀前葉降灰）層の上下から、遺物包含層が検出されました。特に旧河道1・2底面で確認された遺物集中箇所からは、良好な状態で多量の土器が出土しました。（表紙写真参照）



建物跡 南東から

【建物跡】

丘陵南西裾部の溝2の西側では、多くの柱穴が確認されました。切り合う柱穴も認められ、複数時期に及ぶ掘立柱建物跡群と考えられます。これらは灰白色火山灰層を切っており、10世紀以降の建物跡と考えられます。井戸跡もほぼ同一時期と思われる。特に出土遺物はありません。

3. 発見された遺物

今回の調査で出土した遺物は、奈良時代～平安時代の土師器・須恵器・赤焼土器・古瓦・鉄滓ほか、縄文土器や管玉、砥石です。遺物総量は整理用コンテナで12箱です。



赤焼土器: 坏 遺物集中箇所 1 から、下の土師器とともに多量に出土しました。ろくろで作られた素焼きの土器です。



土師器: 坏 遺物集中箇所 1 から出土しました。内面には水漏れを防ぐための黒色処理が施されています。ろくろで成形された素焼きの土器です。



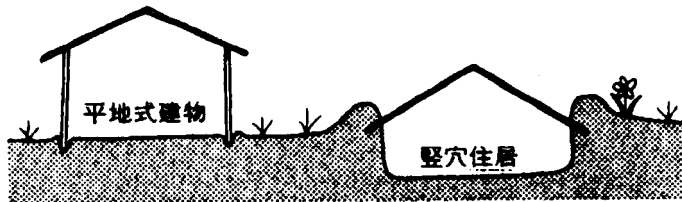
管玉 2号住居跡堆積土から出土しました。



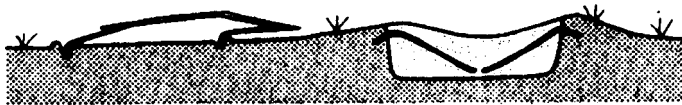
布目瓦 溝 3 堆積土から出土しました。

まとめ

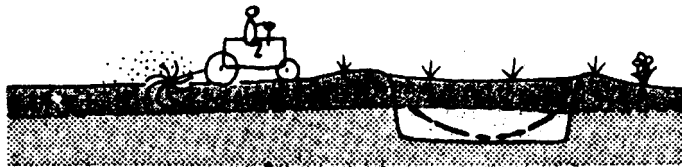
1. 今回の調査では、竪穴住居跡 6 軒、焼土遺構 3 基、溝跡 3 条、遺物包含層 2 箇所、遺物集中箇所 2 箇所、井戸跡 1 基、掘立柱建物跡のものと考えられる多数の柱穴（ピット）などが発見されました。
2. 主な遺構の年代は奈良・平安時代です。掘立柱建物跡・井戸跡などは 10 世紀以降に属するものと考えられます。
3. 出土した遺物は、奈良時代～平安時代の土師器・須恵器・赤焼土器・古瓦・鉄滓ほか、縄文土器や管玉、砥石があります。



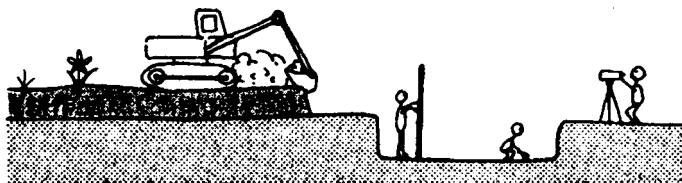
1 古代の村



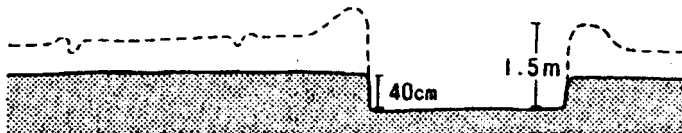
2 古くなって家が使われなくなる。



3 時間が経ち、現在になる。古代の地面と現在の地面は同一であり、耕作されると古代の村は上半分がなくなる。



4 耕作土をどかしてから発掘調査。



5 このようにほとんどの古代の遺跡には古い地面がない。

『先史日本の住居とその周辺』(1998)より一部改変
(奈良国立文化財研究所報告)